

第 3 回 学 習 基 本 調 査 (速 報)

(2 0 0 3 年 3 月 ベネッセ教育総研)

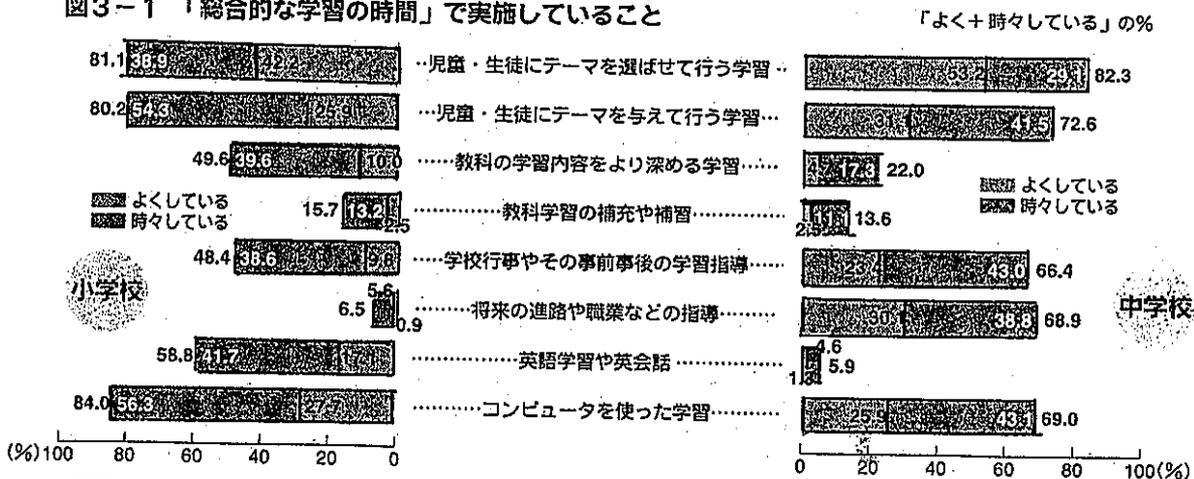
- 調査時期 2002年9月～10月
- 調査対象 (全国14都道府県より地域類型別構成 (都道府県庁所在地、その他の市、郡部) を考慮した割り当て法により抽出)
(学校調査: 管理職対象に実施)
小学校642校、中学校603校
(教 員)
小学校3, 619名、中学校3, 388名

1 「総合的な学習の時間」の内容

小・中学校ともに「テーマ学習」がひとつの柱。小学校では、英語学習の実施がおよそ6割、教科学習との関連も見出せる。中学校では、進路指導や学校行事の一環としての活用が多い。

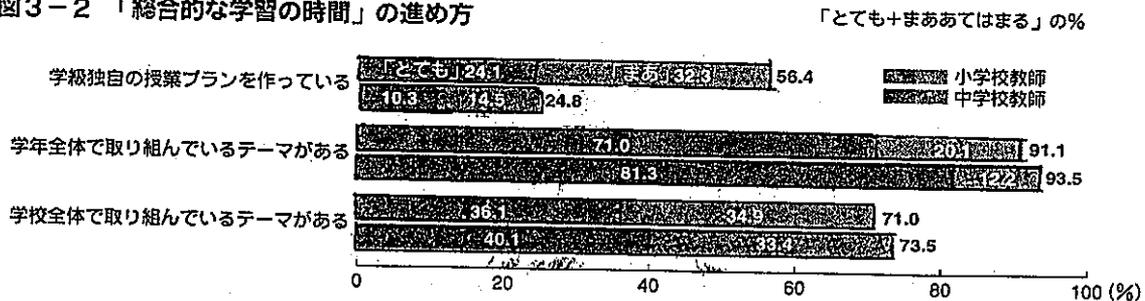
Q あなたが担当している「総合的な学習の時間」では次のような学習をしていますか。
(担当していると回答した教師のみ)

図3-1 「総合的な学習の時間」で実施していること



Q あなたの「総合的な学習の時間」の進め方として、次のことはどの程度あてはまりますか。
(担当していると回答した教師のみ)

図3-2 「総合的な学習の時間」の進め方



「総合的な学習の時間」の内容としては、小・中学校ともに「テーマ学習」がひとつの柱となっている。小学校では、「コンピュータを使った学習」(84.0%)、「英語学習や英会話」(58.8%)も多い。また、半数近い小学校教師が「教科の学習内容をより深める学習」にも取り組んでいる。学級担任制の小学校の場合、「総合的な学習の時間」は、学級内の様々な教科学習とも関連づけて活用される傾向がある。他方、中学校では、「コンピュータを使った学習」

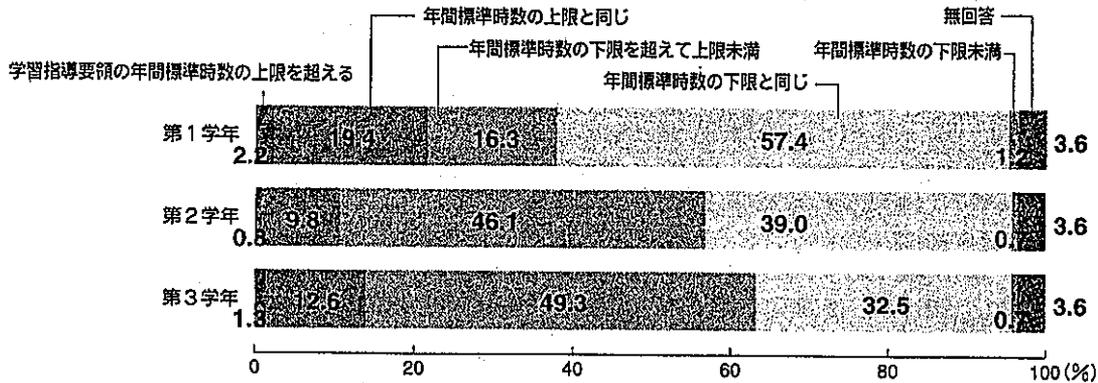
「将来の進路や職業などの指導」「学校行事やその事前事後の学習指導」がそれぞれ7割弱と多いのに対し、「教科の学習内容をより深める学習」は2割強であった(図3-1)。教科担任制の中学校では、「総合的な学習の時間」には学年全体で取り組む割合が高く(図3-2)、各教科の学習内容を深めるといよりは、より共通の課題——進路学習や学校行事の一環として活用される傾向がある。

「総合的な学習の時間」の年間時数について

今後の年間標準時数について、「削減したほうがよい」「なくしてもよい」と回答した中学校教師は7割を超える。

Q 今年度の貴校の、各学年における「総合的な学習の時間」の年間授業時数はそれぞれ何時間ですか。

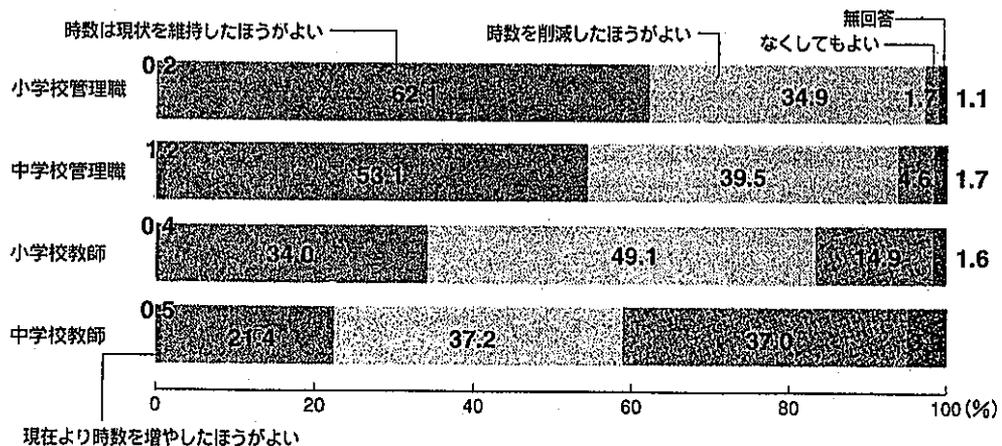
図3-3 「総合的な学習の時間」の年間授業時数の設定の状況（中学校）



Q 「総合的な学習の時間」の標準時数について、どのようにお考えですか。

図3-4 「総合的な学習の時間」の標準時数についての意見

「教師」の回答は「総合的な学習の時間」を担当している教師における%



中学校における年間授業時数の設定については、標準時数の下限（70時間）に設定する学校が、第1学年では57.4%、第2学年では39.0%、第3学年では32.5%。第1学年で下限に設定する学校が多い（図3-3）。他方、小学校における時数設定は、標準時数どおりがおおむね8割であった（図省略）。また、「総合的な学習の時間」の年間標準時数について考えをたずねたところ、管理職の場合、小学

校で6割、中学校で5割強が「現状を維持したほうがよい」と回答。しかし、「削減したほうがよい」と回答した管理職も4割弱に達する。「総合的な学習の時間」を担当している一般教師においては、小学校では「現状維持」3割強、「削減」約5割、中学校では「現状維持」2割強、「削減」「なくしてもよい」はそれぞれ4割弱という回答であった（図3-4）。

3

「総合的な学習の時間」導入の結果

授業の創意工夫、教師間の連携などでは、大きな成果と可能性がみられた。小学校では、児童の「学習意欲の高まり」「学ぶ力や学び方を身につけた」とする割合が7割前後に達する。一方で、教師の負担感も大きい。

Q

「総合的な学習の時間」を導入した結果として、次のことはどの程度あてはまりますか。

図3-5 「総合的な学習の時間」導入の結果（小学校教師）

「とても+まああてはまる」の%

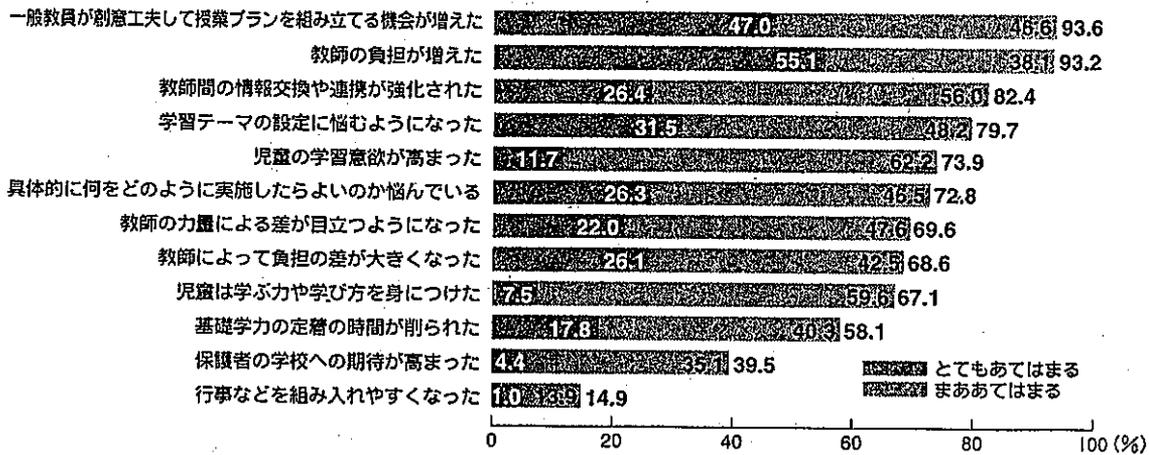
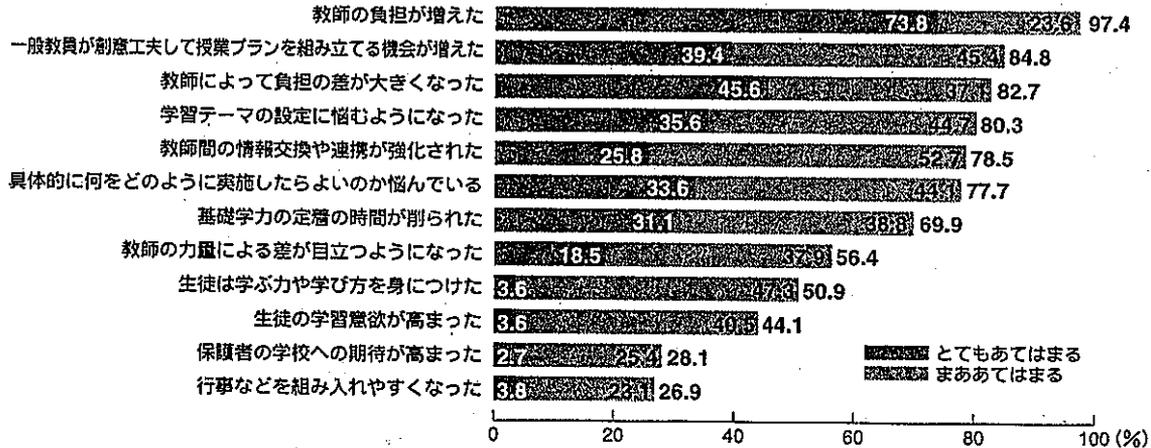


図3-6 「総合的な学習の時間」導入の結果（中学校教師）

「とても+まああてはまる」の%



「総合的な学習の時間」導入の結果として、小・中学校ともに、「創意工夫して授業プランを組み立てる機会が増えた」「教師間の情報交換や連携が強化された」などのメリットがうかがえる。また、「児童・生徒の学習意欲が高まった」という手ごたえは小学校教師の7割が感じているが、中学校教師は4割にとどまった。他方、「教師の負担が増えた」「学習テーマの設定に悩むようになった」「教師によ

って負担の差が大きくなった」「具体的に何をどのように実施したらよいか悩んでいる」といった回答は、小・中学校ともに多く、実践を深める上での負担感や悩みが現れている。特に中学校では顕著であり、さらに「基礎学力の定着の時間が削られた」も7割に達する。今後、「総合的な学習の時間」のメリットを活かすためには、教師に対する条件整備や支援が求められている。